

# ぎんれい句会 平成三十年十一月

びんと張る係留索や秋澄めり

主宰 細野恵久 福祉三期

柿振りて二元二元と露天商

増田和子 食文一期

母植ゑし今年米研ぐ母の通夜

三枝邦光 美工五期

首塚へ触るる高さや秋桜

國永靖子 音文六期

銅鐸の澄みし音色や秋高し

猿橋二三雄 福祉八期

目を閉じて無伴奏チエロ聴く夜長

加藤善巳 美工八期

ヒヨと打つ大草秋の気を縛る

太田 實 国際十期

折り紙をおしえて遊ぶ冬待つ日

大下絹子 国際十五期

新米のキラリと光る炊き上がり

中村建生 国際十五期

柿売が路上駐車をとがめられ

藤本武子 国際十五期

秋うらら幼児水撒く水琴窟

山下 進 国際十五期

秋さやか等間隔の太公望

許斐國照 食文十五期

断酒せし枝豆飯は青くさし

沖本牙辺子 国際十七期

みのこづち付け亡き友の写生会

香春早苗 国際十七期

角打ちの樽に枝豆転がりぬ

仲田慎輔 国際十七期

新米の香沸沸あたらしき朝

中村富美子 国際十七期

丁寧の新米研ぐ手の嬉しさよ

小栗恭子 健福十八期

黒枝豆臨月のごとふくらみて

潮江敏弘 健福十八期

尾瀬沼に雨蕭々と草紅葉

野見山剛 健福十八期

廃校の解体近し草紅葉

今井義和 美工二十期

空はまだ慈母の面差し小六月

尾崎育久 美工二十一期

戸隠の新蕎麦青く香りけり

黒木早苗 食文二十一期

温もりの新藁担ぎ香も運ぶ

宮脇暁美 食文二十一期

枝豆を吾子ら競ひて殻の山

大歳敏子 健福二十二期

まづ母へ新米小さく握りおく

大田直子 生環二十二期